萩市基本ビジョン
改定版

Challenge ～みらいへの挑戦～

暮らしの豊かさを実感できるまち

令和4年（2022年）3月

山口県　萩市

萩市においては、平成30年７月、政策体系の最上位に位置づけられる、萩市の将来像やまちづくりの指針として「萩市基本ビジョン」を策定し、「暮らしの豊かさを実感できるまち」を目指し、市政運営に取り組んでまいりました。

そのような中、令和元年12月、突如発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、瞬く間に全世界に拡大し、人々の健康を脅かすだけでなく、日々の生活を一変させ、地域経済活動は停滞を余儀なくされました。一方で、首都圏在住者を中心に、地方移住への関心が高まるなど、新型コロナウイルスの感染拡大により、「住まい」や「暮らし方」に対する考え方が変わりつつあり、一人ひとりの行動や価値観にまで影響を及ぼしております。

こうした状況下において、策定時には想定出来なかった、大きく変化を続ける社会経済情勢に的確に対応するため、このたび、基本ビジョンの改定を行うことといたしました。

本ビジョンでは、人口減少を最も重要な課題と位置づけ、人口減少が市民生活に及ぼす様々な影響を市民の皆様と行政でしっかりと共有し、一日も早く効果的な取組を推進していく必要があるとしていることから、人口減少対策をはじめ、各種施策に取り組んでまいります。

萩市を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進行をはじめ、近年の気候変動などを要因とする自然災害や異常気象への対応、未だ収束の見通せない新型コロナウイルス感染症への対応など、多くの課題に直面しております。

私は、この難局に正面から向き合い、市民の皆様の声をしっかりとお聴きし、皆様と心をひとつに、力を合わせ、萩の未来を切り拓くまちづくりに積極的に挑戦してまいります。

そして、本年は、日本近代化の礎を築いた若者たちを育てた松下村塾が、開塾から180年、国の史跡に指定されてから100年の節目の年であります。

松下村塾における人づくりの伝統をしっかりと受け継ぎ、これまで先達が培ってきた萩市ならではの教育理念に沿って、次代の萩を担う人材育成に努め、「明るく元気な萩市」を創ってまいります。

終わりに、本ビジョンの改定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました萩市総合戦略推進委員、市議会議員の皆様をはじめ、まちづくりに対してご意見をお寄せいただいた関係各位に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

令和４年３月

萩市長　田　中　文　夫

第１章　萩市基本ビジョンの策定にあたって

萩市基本ビジョンとは

萩市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針であり、本市の政策体系において最上位に位置づけられる計画で、各分野にわたる各種計画の基本となるものです。

萩市基本ビジョン策定の背景

我が国全体が人口減少社会を迎えたことに加え、東京圏への人口集中が進む中、地方においては、その責任のもと、地域の特色をいかしたまちづくりが求められています。

特に、広大な中山間地域を有する本市においては、人口減少と少子高齢化が著しく、10年後の推計では、20～39歳の若年女性人口が激減し、これに伴い出生数も減少することが示されており、このことは、将来にわたる人口減少の加速化を意味しています。

人口減少は、私たちの暮らしにも大きな影響を与えることとなり、地域経済及び産業活動の縮小、後継者不足、税収入の減少による行政サービス水準の低下のほか、一定の人口規模の上に成り立っている小売、飲食、医療などの日常生活に必要なサービスの撤退につながるおそれがあります。こうした状況を市民と行政が十分に認識した上で、一日も早く効果的な対策を講じる必要があります。

一方、平成17年3月の市町村合併から10年が経過し、平成25年7月に発生した萩市東部集中豪雨災害における市を挙げた復興への取組に代表されるように、本市の一体感の醸成は着実に進んでいるところですが、地域全体の発展のためには、今後も、さらなる取組を推進していく必要があります。

本市には、誇るべき歴史・文化や自然環境、豊富な農林水産資源、伝統ある地場産業など、数多くの魅力ある地域資源があります。これらの素晴らしい素材を活用し、市民と行政が一体となり、将来にわたり持続可能なまちづくりに向けて取り組む市政運営の基本指針として「萩市基本ビジョン」を策定するものです。

計画期間

計画期間は、2018（平成30）年度を初年度とし、2027年度までの10年間です。

なお、今後の社会情勢等に柔軟に対応するため、必要に応じて見直しを行います。

年　度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
萩市基本ビジョン（10年）	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

萩市基本ビジョンの改定について

新型コロナウイルス感染症※は、人々の健康を脅かすだけでなく、日々の生活や地域経済活動、さらには一人ひとりの行動や価値観にまで影響を及ぼしています。

また、ＩＣＴの活用は生活行動や働き方の変革につながり、地域社会や地方行政においても、生活の利便性向上や行政運営の効率化等が期待されています。

こうした状況下において、社会全体が時代の転換点に直面していることを認識し、大きく変化を続ける社会経済情勢に的確に対応するため、「萩市基本ビジョン」を改定するものです。

※「新型コロナウイルス感染症」・・・2019年12月に世界で初めて検出された感染症（COVID-19）。日本国内では、2020年1月に初めて感染者が確認された。

第２章　めざすまちの将来像

めざすまちの姿

本市にある素晴らしい地域資源をいかし、都市機能の充実と強化を図り、人口減少に歯止めをかけるとともに、活力と魅力ある萩市を次代に引き継いでいくことが求められています。

「豊かな自然や歴史に恵まれた環境の中で人を育てたい。」

「産業に活力があり、雇用が生まれ、人が集まり、元気なまちにしたい。」

「福祉や医療、子育て環境、交通網などが充実し、住み慣れた地域で、大切な家族や友人と自分らしく過ごしたい。」

このような願いを込めて、市民、民間団体、企業、行政等が互いに連携し、支えあいながら、ひとが輝き、産業活力がみなぎり、まちがきらめく萩の未来を創造し、住みよいまち、住みたくなるまちとなるよう、本市のめざすまちの姿を次のとおり定めます。

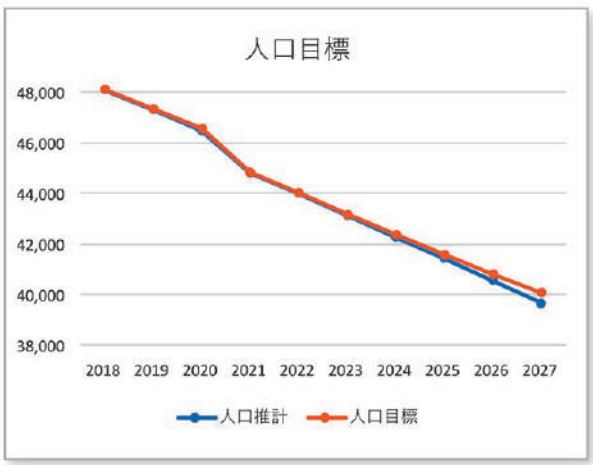
暮らしの豊かさを実感できるまち

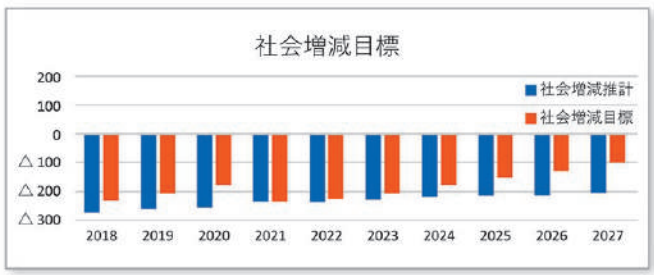
将来人口について

本市の人口は、1955（昭和30）年の97,744人をピークに年々減少し、2017（平成29）年には48,895人と、ピーク時に比べて、概ね半減しています。近年の人口の減少幅は年平均1,000人前後で推移しており、現在のすう勢では自然減と社会減が同時に進行し、2027年には約39,700人にまで減少することが予測されます。

この人口減少幅の抑制に向け、次のとおり目標を掲げます。

2027年に**社会増減のマイナスを100人以内**、**出生数を200人以上**とすることを目指し、目標人口を**40,000人**とします。





萩市基本ビジョンの体系

萩市基本ビジョンに掲げる「めざすまちの姿」の実現に向けて、基本ビジョンを支える３つの構想並びに「萩市人口ビジョン」及び「萩市総合戦略」に基づく施策を展開するため、各分野、各地域における個別計画を推進するとともに、施策を具体化し各種の取組を展開します。

また、「萩市総合戦略」では、施策に対する数値目標を定め、施策の進捗状況等を把握するとともに、施策や事業の改善を図る仕組み（PDCAサイクル※）を導入し、萩市総合戦略推進委員会や市議会等において、効果検証を実施するなど、実効性のある地方創生の取組を進めます。

萩市基本ビジョン

めざすまちの姿　暮らしの豊かさを実感できるまち

めざすまちづくり（基本方針）

- だれもが生きいきと暮らせるまちづくり
- 子育ての幸せが実感できるまちづくり
- 未来を担うひとを育むまちづくり
- 産業活力があふれるまちづくり
- 魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり
- 生活基盤の充実した住みよいまちづくり
- だれからも愛されるまち、求められるまちづくり

※「PDCAサイクル」…P(plan)計画、D(do)実行、C(check)評価、A(act)改善の略で、繰り返し行うことで、継続的にプロセスを改善していく手法

めざすまちづくり（基本方針）

だれもが生きいきと暮らせるまちづくり

生涯を通して健やかに安心して住み慣れた地域で生きいきと生活していくことは、市民だれもの願いです。

急速な少子高齢化社会を迎える中、だれもが自分らしく生きいきと暮らすことができ、個性や特性を認め合いながら互いに支え合う、自立と協働による地域社会の実現が求められています。

また、新型コロナウイルス感染症対策については、その予防に関係機関と連携して取り組むとともに、感染された方々等への差別、偏見を防止し、人権への配慮が損なわれることがないよう取り組みます。

高齢者や障がい者に配慮し、全ての市民が誇りと希望を持って暮らし続けることができるよう、医療・介護・福祉・健康の充実した人にやさしいまちづくりを目指します。

持続可能な医療体制の構築

地域において安心して暮らせる医療体制を確保できるよう、医療・介護・福祉・保健等の関係機関が連携するとともに、限られた地域医療資源※を最大限活用し、将来にわたり持続可能な医療体制の構築に取り組みます。

地域ぐるみの助け合い「地域包括ケアシステム」の深化・推進

ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者が増加する中、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で生きがいを持って暮らし続けることができるよう、介護や医療の専門職による一体的なサービスの提供や地域住民の助け合い活動など、多様な主体による包括的な支援体制「地域包括ケアシステム」の深化・推進に取り組みます。

青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進

長生きをするだけではなく、いつまでも健康で元気に暮らすことができるよう、働き盛りとなる青・壮年期からの食・運動などの生活習慣の改善や疾病予防をはじめ、それぞれの年齢に応じた健康づくりを推進するなど、健康寿命※の延伸に取り組みます。

障がい者の社会参加の促進

障がいのある人が住み慣れた地域で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、相談支援体制や雇用・就業支援をはじめ、障がいの特性を踏まえたサービス体制の整備に取り組み、障がい者の社会参加を促進します。また、障がいに対する正しい知識の啓発等により、障がい者の権利擁護の推進を図るなど、共生社会の実現に取り組みます。加えて、全ての人にやさしい社会の実現のため、ユニバーサルデザイン※に配慮したまちづくりに取り組みます。

安心で質の高いサービスの確保

高齢化の進展に伴い、医療・介護・福祉サービスへの需要の増加が見込まれる一方、地方では、これらのサービスの従事者が不足しています。人材育成をはじめ、労働環境や処遇の改善への取組を推進するなど人材確保に取り組みます。

※「地域医療資源」…地域における医師、看護師等の人材資源や、医療機関、医療機器等の物質的資源など、医療に関する資源

※「健康寿命」…健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間

※「ユニバーサルデザイン」…高齢者や障がいのある人などを含めた全ての人がはじめから利用しやすいように施設、物、サービスなどの設計（デザイン）に配慮を行うという考え方

子育ての幸せが実感できるまちづくり

近年の人口減少や少子高齢化の進行等の影響により、家族形態の変化や近隣住民との関係の希薄化が進むと同時に、新型コロナウイルス感染症の影響による人と人との接触機会の減少など、子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。また、子育て世代の働き方の変化に伴い、子育て支援に対するニーズが多様化する中、男女を問わず、仕事と子育ての両立のための支援を推進していくことが求められています。

子どもの幸せは家族の幸せであり、地域の幸せです。子どもは、市民みんなの宝として、地域全体で支え合う仕組みづくりにより、子育て世代が子どもを育てる喜びを感じることのできる地域社会を目指すとともに、妊娠から子育てまで一貫したサポート体制を充実し、だれもが安心して子どもを産み育てやすいまちづくりを目指します。

妊娠・出産・子育て環境の充実

子育て世代包括支援センター※を核として、妊娠・出産・育児における不安に対する相談体制の充実を図るとともに、必要な支援が受けられる体制を整備します。子どもを持つ保護者への経済的支援をはじめ、保護者のニーズに応じた利用しやすい子育て支援サービスの充実により、子どもを育てることへの不安を解消し、安心して子育てができる環境づくりに取り組みます。

子どもたちの笑顔があふれる居場所づくり

子どもたちが健やかに育ち、孤立することなく、心豊かに成長できる環境づくりのため、子ども同士のふれあいの場となる保育所等の維持・充実を図るとともに、子どもたちの個性をいかし、子どもたちの目線に立った保育サービスの提供や放課後等における子どもの生活と遊びの場の充実に取り組みます。

仕事と子育ての両立支援

核家族化や就労形態の変化などに伴い多様化するニーズへ対応した保育サービスにより、仕事と子育ての両立しやすい環境づくりを推進するとともに、男性の育児参加を促進するなど、子どもを育てる喜びと責任を男女がともに実感できるよう取り組みます。

また、ひとり親家庭の自立を支援し、生活の安定と向上を図るため、個々の家庭状況に応じた子育てや生活、就業、子どものサポートなど総合的な支援の充実に取り組みます。

出会い・結婚サポートの充実

結婚を希望する独身男女が、一人でも多く出会いの場に恵まれるよう、市内の団体や事業所等と連携し、若い世代が、家族を持つことに対して前向きに考えられるよう、結婚情報の提供やサポート人材による支援体制の充実に取り組みます。

※「子育て世代包括支援センター」…妊娠期から子育て期にわたり、切れ目のない支援をするワンストップ拠点

未来を担うひとを育むまちづくり

少子高齢化の進展に伴う就学・就業構造の変化、技術革新やグローバル化の進展に伴う産業構造や社会システムの変化、子どもの貧困等による社会経済的な課題、新型コロナウイルス感染症の影響など、社会情勢の変化により、多様な教育や学習の場が求められています。

「まちづくり」のために最も大切なことの一つは「ひとづくり」であり、本市では、藩政時代から人材育成に力を注いできた歴史があります。

先人の「ひとづくり」のＤＮＡを呼び覚まし、誰もが将来への夢と志を抱き、自ら学び、自らの可能性を信じ、未来へ向かって挑戦することができるよう、教育・学習の機会を創出するとともに、地域の教育資源を最大限に引き出し、本市の次代を担うひとづくりを目指します。

「志」教育の推進

日本の近代化の礎を築いた先人や現代のプロフェッショナルな人たちの生き方を学ぶとともに、地域の人的・物的資源を活用した体験活動を通して、社会のために役立つ人間になろうとする「志」教育を推進し、将来、社会に貢献できる人材の育成に取り組みます。

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

子ども一人ひとりの能力や適性に応じた教育を進め、多様な人材を活用したきめ細かな指導を推進するなど、子どもたちの能力を引き上げるとともに、県下トップレベルの学力を目指します。また、芸術・スポーツをはじめ、特定の分野において、特に秀でた能力を有する子どもたちの才能の伸長を図ります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、一層加速されたＩＣＴを効果的に活用し、新しい時代に対応した資質・能力の育成に取り組みます。

地域とともにある学校づくりの推進

子どもたちや地域社会の実態を踏まえた創意と活力に満ちた特色ある学校づくりを推進するとともに、学校が地域コミュニティの核としての役割を果たせるよう、学校と地域が一体となって地域の特色をいかした学校づくりに取り組みます。

萩の未来を支える教育機会の充実

時代の変化、多様な学習活動に対応した学校施設の充実に加え、萩の将来を担う人材を育成するため、キャリア教育※を推進するとともに、学ぶ意欲と能力のある若者に対する教育機会の充実に取り組みます。

※「キャリア教育」…一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促す教育

産業活力があふれるまちづくり

本市の産業は、豊かな自然環境や歴史・文化資源などの地域の特性をいかした、農林水産業、商工業、観光業など幅広い分野にわたります。しかしながら、人口減少や少子高齢化を背景に、後継者不足が深刻化するなど、大変厳しい状況にあります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響はあらゆる産業に及んでおり、地域経済の早期回復に向けた取組が求められています。

元気な地域産業を再生するため、本市の魅力を力強く発信するとともに、「人」「物」「情報」の交流や、外部人材と地域資源を最大限に活用する創意のある事業活動を促進し、足腰の強い経営体の育成や新たな産業の創出を目指します。

地域のにぎわいを取り戻す地場産業の再生

萩市経済を支える中小企業・小規模事業者への経営安定化の支援施策を充実させるとともに、萩産品のブランド戦略を再構築し、付加価値の向上や販路拡大による利益を生み出す仕組みづくりを推進します。

また、新型コロナウイルス感染症を契機とした新たな動きをチャンスととらえ、デジタル化の推進及び産業人材を呼び込む移住支援など、活力ある地場産業の再生に取り組みます。

起業･創業と企業誘致の推進

産官学金の連携により、地域を牽引する事業の創出や起業・創業を支援するとともに、企業誘致施策をさらに推進することにより、産業活力の創出に取り組みます。

企業人材の育成と雇用拡大の支援

本市の地域経済の振興が図られるよう、企業活動を支えるビジネスマンを育成するリカレント教育※を支援するとともに、企業と就業希望者とのマッチングを図るため、ＵＪＩターン者や新卒者等の市内への就職支援を促進し雇用の拡大に取り組みます。

力強い農林水産業の推進

農林水産業を「産業」として強くしていくため、農林水産物の生産振興に加え、商品開発や販路拡大に意欲的に取り組む経営体に対して支援を行うなど、農林水産業従事者の所得向上を図ります。また、生産基盤の充実を促進し、生産性の向上を図るなど、萩の強みを最大限にいかした持続可能な力強い農林水産業の振興に取り組みます。

地域産業の担い手・後継者育成

農林漁業従事者の減少と高齢化が進む中、経済団体と行政が連携し、担い手の募集・研修・就業までの一貫した取組を行うことで、新規就業者の円滑な就業を支援します。また、中小企業経営者の高齢化を踏まえ、後継者等による円滑な事業継承の支援に取り組みます。

地域経済の発展を加速化する高速道路ネットワークの形成

「人」や「物」の活発な流れを支える高規格道路として、山陰道及び小郡萩道路の整備を促進します。

また、高速道路ネットワークとインターチェンジを最大限に活用するまちづくりに取り組みます。

※「リカレント教育」…社会人になってからも新たに必要とされる知識・技術を習得するため教育機関に戻り再教育を受けること又は学び直し

魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり

歴史的まちなみや豊かな自然景観、伝統ある地場産業、四季折々の花や旬の味覚など、地域や暮らしの中で大切に育まれてきた「もの」や「こと」を「萩ならではの宝物（おたから）」として守り、伝え、活用してきたこれまでの取組が世界遺産登録など、「歴史と文化のまち・萩」のブランド化につながってきました。

さらなるまちの魅力向上のためには、これらの地域資源を観光や産業の中でいかすとともに、守り伝えるための仕組みづくりが必要です。また、新型コロナウイルス感染症の影響により特に深刻な状況が続く観光業においては、早期回復に向けた取組や収束を見据えた事業展開が求められています。観光地経営の視点に立ち、地域資源を有機的に結びつけることにより、新たな萩の魅力を創出し、地域経済の振興につながるまちづくりを目指します。

全国に誇る萩のまちなみの継承

人々の暮らしと共にある伝統的建造物群保存地区をはじめとする萩の美しいまちなみ、そこに息づく伝統文化や地場産業などを未来へ伝えていきます。

また、さらなるまちの魅力向上に向け、まちのにぎわい創出につながる景観形成の取組や、花と緑による、潤いと安らぎのある都市環境の形成に取り組みます。

文化財の保存と活用による萩のにぎわいづくり

指定文化財をはじめ、各地域の多様な文化遺産を次世代に継承するとともに、これらを萩の産業・観光・人づくりなどに積極的に活用し、萩の活性化を図ります。

また、明治日本の産業革命遺産の価値や萩市の５つの構成資産の意義などを広く情報発信するとともに、世界遺産を活用した地域振興に取り組みます。

文化のおたから、自然のおたから、産業のおたからの再発見・継承

萩まちじゅう博物館の中核施設である萩博物館を拠点に、各地域にあるおたからを市民との協働により再発見するとともに保存・継承し、地域の活性化のために積極的に活用していく取組をより一層推進します。

萩ジオパーク構想の推進

地球の視点で「萩らしさ」が“見える”・“伝わる”まちを目指し、大地と人のつながりをテーマに、地質遺産を守り、活用するジオパークの取組を市民と共に推進します。

観光地経営の視点に立った観光地域づくりの推進

萩版DMO※を舵取り役として多様な関係者と連携し、観光戦略を推進するとともに、新たな客層の開拓やリピート客を確保するため、多様なニーズや感染症対策に対応する受入環境の整備や支援を行い、観光客の満足度向上を目指します。また、ターゲットとなる客層を明確にした観光情報の発信や、多様な関係者と連携して行う取組を支援することで、地域の稼ぐ力を引き出し、観光客による市内消費を拡大し、市全域に波及するよう取り組みます。

観光客誘致の積極展開

観光ルートや関連テーマで目的を共有する観光地との連携を強化するなど、効果的な観光客誘致の機会を拡大するとともに、ＳＮＳ※等を活用し積極的な情報発信に取り組みます。また、国内外における観光情報の発信を強化し、本市の認知度向上を図るとともに、外国人観光客の誘致拡大に取り組みます。

※「DMO」…デスティネーション　マネジメント　オーガニゼーション（Destination Management Organization）の略で、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として観光戦略を実施する調整機能を備えた法人

※「ＳＮＳ」…ソーシャル　ネットワーキング　サービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士がインターネット上で交流できる会員制サービス

生活基盤の充実した住みよいまちづくり

過疎化の進展とともに、住宅や店舗等の郊外化による市街地の空洞化が進みつつあります。また、中山間地域においても人口減少に伴い、福祉や買物をはじめとする住民生活に必要なサービス機能の提供に支障が生じています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、「新しい生活様式」の確立が求められる中、将来にわたり持続可能で快適な生活が送れるよう、生活環境基盤の充実など、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる安全・安心なまちづくりを目指します。

暮らしに密着した交通網の形成

公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の低下を抑制するため「地域公共交通網形成計画」に基づき、まちづくりと連携して、萩市の全体的な公共交通ネットワークの再構築に取り組みます。

生活サービス機能の維持・向上

都市計画区域内における都市機能の集約化や、中山間地域における生活機能の維持を図るとともに、交通ネットワークの形成による地域の特性をいかした萩らしい拠点づくりの推進など、福祉・医療・商業施設等の市民生活に必要なサービス機能の維持・向上を図り、持続可能なまちづくりに取り組みます。

持続可能で快適な環境づくり

快適な暮らしを支える橋りょうやトンネルをはじめとする道路施設の機能性と耐久性の向上、上下水道施設の計画的な整備及び更新並びに公共施設の計画的な集約化を推進するなど、長期的視点に立った公共インフラ※の整備・管理に取り組みます。

また、増え続ける空き家の有効活用と適正な維持管理の促進をはじめ、生活に密着した環境問題に的確に対応するなど、快適な生活環境づくりに取り組みます。

防災体制の強化

災害時や国民保護事案発生時の市民への迅速・確実な情報伝達体制の整備、市民参加の防災訓練の実施による防災意識の向上や自主防災組織の育成に努め、地域防災力強化に向けて取り組みます。

地球にやさしい循環型社会づくり

省資源・省エネルギーの推進、再生可能エネルギーへの転換・導入の促進など低炭素社会の構築に向けて取り組みます。

※「公共インフラ」…市が所有する観光施設や公民館などの建築物及び道路、公園などの社会生活の基盤を形成する構造物の総称

だれからも愛されるまち、求められるまちづくり

本市では人口減少と高齢化が進み、特に、中山間地域等ではコミュニティの存続も危ぶまれています。

一方、都会を離れ、地方で暮らしたいと考えている人が、若い世代を中心に増えており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響などにより、本市への移住者も増加傾向にあります。

魅力ある地域づくりに向けて、市民の皆さんとともに、悩み、考え、そして、新たな一歩を踏み出すことができるような取組を推進し、「暮らし続けたい」「移り住みたい」と思われるようなまちづくりを目指します。

市民との協働による元気なコミュニティづくり

地域住民が主体となり自治活動等を行うコミュニティ組織を支援するとともに、安心・安全な地域づくりや男女が共に活躍する地域社会の創出など、市民と行政が一体となった市民活動の推進に取り組みます。

萩の魅力をいかした移住・定住

萩の資源をいかした「萩暮らし」の体験や魅力の発信による移住・定住の促進をはじめ、継続的に地域とつながる「関係人口」※を増やす仕組みを生み出し、萩への関心を育むことにより段階的な移住・定住を促進します。また、移住の際の相談や受入体制の充実を図るとともに、地域への定着を促進するため、移住した方へのサポート体制の充実に取り組みます。

市民一人ひとりが輝くまちづくり

市民一人ひとりが健康で教養を高めるとともに、生涯学習やスポーツを通じて生きがいを持ち、文化的で心豊かに暮らすことのできるまちづくりに取り組みます。

また、年齢、性別、障がい、性的少数者、国籍など多様性への理解を深めるとともに、だれもが自分らしく生きることを認め合い、人権が尊重され、市民一人ひとりの笑顔が輝くまちづくりに取り組みます。

地域の特色をいかしたまちづくり

人口減少や高齢化が著しい中山間地域等において、歴史・文化・自然・産業などの特性をいかし、住民とともに策定する地域振興計画「夢プラン」に基づき、地域と行政が一体となったまちづくりに取り組みます。

魅力ある離島の発展

「特定有人国境離島地域」に指定された見島での滞在型観光の促進をはじめ、萩諸島で実施するイベント等により、各島の魅力発信や交流を促進するとともに、安心して生活できる島づくりに取り組みます。

DXによる幸せなまちづくり

デジタル技術やデータの活用により、新たな価値を生み出し、行政・地域社会の仕組みやあり方を変革させるDX※を推進し、より便利で豊かな、幸せを実感できるまちづくりに取り組みます。

※「関係人口」…地域や地域住民との多様な関わりを持つ人々のこと。長期的に住む「定住人口」と旅行などで訪れた「交流人口」の中間の概念。出身者や勤務経験者であるなど、自分でお気に入りの地域に定期的に通ったり、何らかの形で地域を応援したりする人

※「DX」…デジタル・トランスフォーメーションの略で、デジタル技術やデータを活用することにより、業務や組織・働き方・サービスなどを変革させること

関連する主な個別計画

だれもが生きいきと暮らせるまちづくり	■健康福祉計画 ■萩市民病院事業新改革プラン
子育ての幸せが実感できるまちづくり	■健康福祉計画 ■子ども・子育て支援事業計画
未来を担うひとを育むまちづくり	■ひとづくり推進計画
産業活力があふれるまちづくり	■農業経営基盤強化促進法に基づく基本構想 ■森林整備計画 ■山村振興計画 ■創業支援事業計画
魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり	■都市計画マスタープラン ■景観計画 ■緑の基本計画 ■明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業萩地区管理保全計画 ■萩ジオパーク構想基本計画・実行計画
生活基盤の充実した住みよいまちづくり	■地域公共交通網形成計画 ■立地適正化計画 ■空家等対策計画 ■公共施設等総合管理計画 ■汚水処理施設整備構想 ■水道事業ビジョン ■地域防災計画 ■国民保護計画 ■国土強靱化地域計画 ■環境基本計画
だれからも愛されるまち、求められるまちづくり	■地域振興計画「夢プラン」 ■ひとづくり推進計画 ■男女共同参画プラン ■子ども読書活動推進計画 ■交通安全計画

※「萩市総合戦略」(H27～H31)の策定に合わせ、総合戦略と一体化した主な計画
■観光５か年戦略(H22～H26)　■水産振興計画(H19～H26)　■中山間地域づくり指針(H19～H26)　など
※「ひとづくり推進計画」(R2～R9)の策定に合わせ、ひとづくり推進計画と一体化した主な計画
■学校教育振興基本計画(H27～R1)　■生涯学習推進プラン(H27～R1)
■スポーツ推進計画(H26～R1)

第３章　基本ビジョンを支える３つの構想

萩市基本ビジョンを支えるため、ひとづくりに関する構想、地域産業振興に関する構想及び萩まちじゅう博物館構想の3つの構想を掲げます。

これらの構想は萩市基本ビジョンの目指すべき方向と一致するものです。

ひとづくりに関する構想

“ひと”が集まるところに“まち”ができ、“ひと”の営みにより“まち”が活動します。

このように、「まちづくり」にとって「ひとづくり」は大変重要なものです。

「ひとづくり」に関する構想では、人を育む教育や子育てはもとより、幼少期から生涯にわたる幅広い分野でのひとづくりについて、市民、教育関係機関、行政等のそれぞれが役割等を持ち、ひとを育てるまちとして萩のひとづくりを進めます。

地域産業振興に関する構想

転出超過が続く萩市において、若年層が定住・定着するためには、働く場の確保は欠かすことが出来ません。そのためにも、萩市の活力ある発展を支える地域経済を力強くすることが求められています。

「地域産業振興」に関する構想では、地域の産業について市民、企業、行政等のそれぞれが役割等を持ち、新たな産業の創出や成長分野への参入のほか、雇用拡大や地場産業の育成など、産業活力のみなぎるまちづくりを進めます。

萩まちじゅう博物館構想

萩市内全域を屋根のない博物館としてとらえ、その中で展開している歴史や文化、自然や民俗、産業など、萩ならではのおたからを保存・活用し、次世代に確実に継承していくことによって、魅力あふれるまちづくりを進めます。

これまでの萩まちじゅう博物館構想を一層深化させるとともに、産業やひとづくりと連動させた萩まちじゅう博物館構想の新しい展開を進めていきます。

【市民憲章】

わたくしたちは、明治維新胎動の地、萩の市民です。この誇るべき歴史と美しい自然が織りなすふるさとを愛し、心のよりどころとなる、あたたかいまちをめざして、この憲章を定めます。

一　先人の志と勇気に学び歴史と文化を大切にするまちをつくりましょう
一　青い海と緑の山を守り詩情豊かなまちをつくりましょう
一　健やかなこころを育み笑顔のあふれる明るいまちをつくりましょう
一　互いに助けあい安心して暮らせる平和なまちをつくりましょう
一　進取の気風を受け継ぎ未来に向かって発展するまちをつくりましょう

市の木

ヒノキ

マツ

市の花

ツバキ

ハギ

市の果樹

ナツミカン

市の生物

ホタル

萩 市